卒業論文

教員にとってのブラック部活動

2019 年入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

1 LT19304Y　中尾誉

2023 年 1 月提出

要約

学生時代の思い出として部活動は非常に大きな存在感を持つ。中学、高校時代の思い出を挙げるとすれば真っ先に部活を挙げる人も多いだろう。仲間と共に 1 つの目標を追いかける中で、顧問から熱血指導を受け、時にはぶつかり合いながらも勝利を目指す。そういった熱くひたむきな学生の姿は美しく、見るものを感動させる。しかし一方で、過剰な練習量や体罰、死亡事故等の問題で苦しんでいる生徒がいるのも事実だ。近年、メディアや SNS 上でそういった行き過ぎた指導を行う部活を「ブラック企業」になぞらえて「ブラック部活動」と呼ぶ動きが出てきた。体罰等の文脈で語られる「ブラック部活動」は、主に教員が加害者、生徒が被害者のケースが多く、学校や教員の指導に疑問を呈する声が後を絶たない。ただ、そこで忘れてはいけないのが、部活動は教育課程外の「自主的な活動」であり、中には普段の授業や授業準備に加えて長時間の部活動指導という不本意な働き方を強いられている教師も多く存在するということだ。さらに部活動の顧問教師の負担は重いものの、学校現場では部活の負担を口に出すことははばかられる（中澤 2017）ため、教員にとっての「ブラック部活動」は解決が難しい。本論文では、そのような教員にとって部活動がなぜブラックになるのかについて、部活動の制度史や聞き取り調査を踏まえて確認していく。

はじめに、部活動の現状として、多くの生徒や教員が部活動に携わっていること、その中でも部活動指導を希望しない教員の多くが教育課程外の部活動の顧問として活動していることを確認した。さらに、給特法と呼ばれる仕組みにより、教員の時間外労働に対して正当な報酬が支払われていないことを明らかにしたうえで、部活動問題について教員、教員の家族、生徒、保護者の視点から見つめなおし、どのような点が部活動の負の側面として問題視されているのかを確認した。

次に、部活動が学習指導要領や社会の中でどのように位置づけられ、存在意義を付与されてきたかについて確認した。明治時代に始まり、戦後は自主性を重んじる教育的なものとして再編された部活動は、社会の変化と共に非行防止や学力社会へのアンチテーゼとして活用され、保護者が部活動に寄せる期待も膨らんだことで教員の負担も増えた。また、

日本の部活動の特殊性についても言及し、諸外国の取り組みを紹介する中で、青少年のスポーツの場として運動部活動が大規模に成立しているという特異性を確認した。

次に聞き取り調査では、現役の中学校教員１名、地域クラブチーム指導者１名にインタビューする中で、部活動指導に対する熱量がどう変化していくか、保護者とのかかわり方等について伺った。その中で、保護者とのかかわり方や、教員の競技経験の有無が部活動をブラックだと感じる大きな要因となることが明らかとなった。さらに、中学校教員のキャリアの中で、部活動の無い小学校教員との価値観の違いについて言及があり、部活動指導が教員の時間外労働への意識に大きな影響を及ぼしていることも分かった。加えて、教員の働き方改革の一環である部活動の地域移行についても話を伺い、主に人材確保という点で地域移行の実現可能性に疑問を呈していることが確認できた。インタビュー結果を基に、部活動の位置づけに関しては、先行研究で示されていたよりも教員の間で正しい理解が進んでいると考えられたが、実際の職員室の空気感としては、未だ部活動指導に対しネガティブな意見や疑問を口にすることははばかられているのではないかと推察できた。教員と部活動のかかわり方を抜本的に変えるためには、学校単位ではなく自治体や国が三位一体となって改革を進める必要がある。また、今後進んでいく部活動の地域移行についても、学校部活動と地域クラブチームの性質の違いを明らかにしたうえで、単なる指導主体の変更では教員の働き方改革という本来の目的を達成することは困難であると感じさせられた。以上を踏まえ、本論文が今後教員の労働環境の改善ならびに、部活動もしくはそれに代わる新たな活動の在り方の一助となることを願い結びとする。

目次

はじめに..... 1

1　運動部活動の実態..... 3

1.1　現在の運動部活動の規模..... 3

1.2　教員の働き方の現状..... 4

1.2.1　教員の労働時間..... 4

1.2.2　教員の給与形態..... 5

1.3　ブラック部活動の諸問題..... 6

1.3.1　ブラック部活動..... 6

1.3.2　教員にとってのブラック部活動..... 7

1.3.3　生徒にとってのブラック部活動..... 13

1.3.4　保護者からみたブラック部活動..... 15

2　先行研究 17
2.1　運動部活動の変遷 17
2.2　学習指導要領上の部活動の位置づけ 18
2.2.1　「自主性」とスポーツ 19
2.2.2　学習指導要領上の部活動 20
2.3　戦後から現在の部活動の位置づけの変遷 21
2.4　運動部活動の意味付けの変遷 27
2.5　日本の運動部活動の独自性 29
3．調査概要 34
4　インタビュー調査 36
4.1　指導におけるモチベーション 36
4.1.1　A 先生の指導時代の語り 36
4.1.2　B 氏の指導におけるモチベーションについての語り 41
4.2　保護者との関わり 42
4.2.1　顧問教師と保護者の関わり 42
4.2.2　B 氏と保護者のかかわり 46
4.3　他教員からの期待 48
4.3.1　同僚教員からの期待 48
4.3.2　管理職教員からの期待 49
4.3.3　部活顧問の依頼 50
4.4　部活問題は職員室でどのように語られているか 51
4.5　教員にとっての部活動の位置づけ 53
4.6　小学校教師と中学校教師の価値観の違い 55

4.7　学校部活動とクラブチームの違い　～B 氏の語りから～ 56
4.7.1　目的の違い 57
4.7.2　指導力の違い 58
4.8　地域移行について 59
4.8.1　教員から見た地域移行 59
4.8.2　クラブチームから見た地域移行 63
5　考察 65
5.1　教員の部活に対するモチベーション 65
5.2　保護者や他教員との関わり 65
5.3　教員間での部活動の位置づけと、職員室内での語られ方 67
5.4　小学校教師と中学校教師の価値観の違い 67
5.5　部活動とクラブチームの違い 68
5.6　地域移行の難しさ 68
6．おわりに 70
参考文献 72